

耕作放棄地を“電力×農業”で再生

芝と電気でつくる まちの未来図

～Jリーグが後押しする地域脱炭素の全国モデル～



ローカルエナジー：発電事業

ガイナレ鳥取：芝生生産

Jリーグ：助成金

しばふる太陽光発電所は、Jリーグが**気候変動緩和策**として進める助成金制度を活用した全国で最初の取り組みです。

ガイナレ鳥取とローカルエナジーが連携して耕作放棄地でソーラーシェアリングを実施する事で**耕作放棄地**を「**芝生畑**」として、「**再エネの発電所**」として再生させる事業です。

「**Jリーグの支援 × 地域新電力 × Jリーグクラブによる農業**」

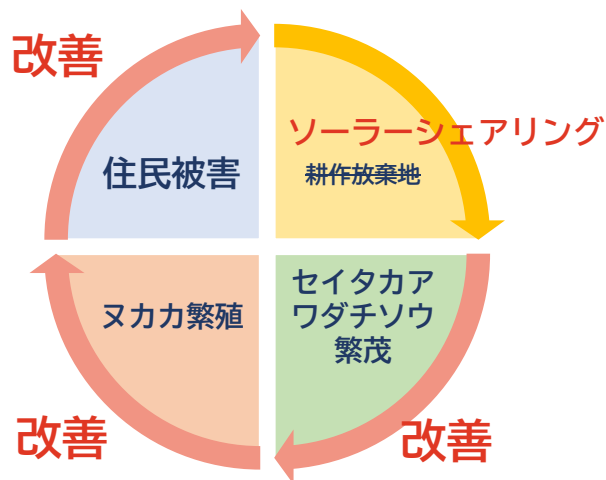
というスキームは、耕作放棄地の再活用と脱炭素を両立する新たな地域モデルであり、他地域への展開を見据えた、再現性の高いモデル

地域脱炭素＝地域課題解決

地域課題



地域課題解決



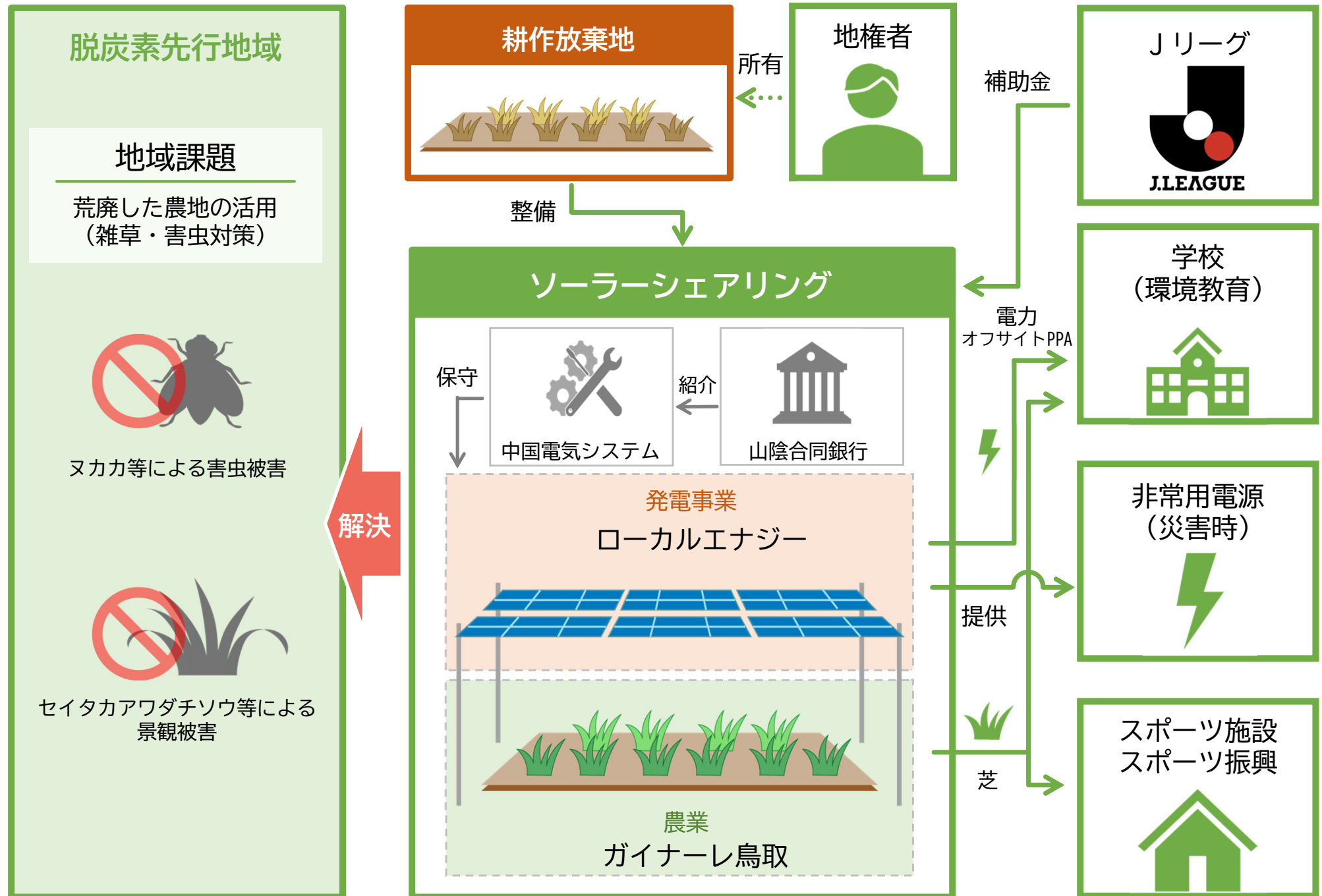
地域脱炭素



地域脱炭素を手段に地域課題も**同時**に解決

©Local Energy Corporation All Rights Reserved.

事業スキーム



しばふる太陽光発電所がもたらす効果



しばふる太陽光発電



モジュール : 75.6kW
パワコン : 49.5KW
想定発電量 : 79,000kWh/年 1,580,000kWh (※)
敷地面積 : 2,726㎡ (設備占有面積1,094㎡)
CO₂削減効果 : 約42.58 t-CO₂/年 約851.6 t-CO₂ (※)
※…20年合計



ソーラーシェアリングのイメージ向上

ソーラーシェアリングの成功モデルとして広く認知されることで、行政内の慎重な立場の関係者にも理解が進み、地域内での導入促進につながります。



環境リテラシーの向上

ソーラーシェアリングによる再生可能エネルギーの地産地消は、地域の環境教育の一環としても紹介され、次世代を担う環境リテラシーの高い人材の育成にも繋がります。



レジリエンスの向上

1日の想定発電量は平均200kWh程度となる見込みで一般家庭の20日分程度の電力を使用することができます。
災害時には非常用電源として開放することで情報収集等災害から生き延びる力を支えることができる発電所です。

波及効果と期待効果



波及効果

「Jリーグ支援 × 地域新電力 × Jクラブ農業」は、耕作放棄地の再活用と脱炭素を両立するモデルです。
また水戸ホーリーホックでも同様のソーラーシェアリングが開始し、横展開が進行中。

全国には約700社の新電力会社があり、Jリーグクラブは60クラブあり、全国へ横展開の再現性の高い取組である。



全クラブに
導入した場合…

4,536kW
約474kWh/年



一般家庭約1,200世帯分に相当



期待効果

しばふる太陽光発電所は、パネルの「影」が作物の日焼け・高温ストレスを抑える効果を検証する実証的な側面を持ちます。
温暖化が進行し、猛暑が常態化する中で影の活用を気候適応策として示す先行事例になることが期待されます。

「影」に作物の日焼け・高温ストレスを抑える効果があるとなれば、太陽光発電による日よけを収量安定の手段になる事を期待している。

